

緩和ケア病棟にて過去に入院された患者さんまたはご家族の方へ （臨床研究に関する情報公開文書）

北海道がんセンターでは、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた患者さんの過去の記録や保管された検体を用いて行います。このような研究は、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」（令和3年3月23日 文部科学省・厚生労働省・経済産業省制定、令和4年3月10日一部改正、令和5年3月27日一部改正）の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の問い合わせ先へご照会ください。この研究は、北海道がんセンター倫理審査委員会で承認され、当院の院長より実施の許可を得ております。

[研究課題名] 進行がん患者の筋・筋膜性疼痛症候群に対する局所麻酔薬を用いた携帯型超音波ガイド下トリガーポイントブロックの効果（前向き観察研究）

[研究機関名・長の氏名]

北海道がんセンター 院長 平賀 博明

[研究代表者名・所属]

北海道がんセンター 緩和ケア内科 医員 山本 兼二

[研究の目的]

この研究は、小型の超音波装置を用いたブロック注射の有効性を研究することで筋肉の痛みの治療方法の確立を目指して行うものです。研究がうまく進めばより効果のあるブロック注射の方法が分かるかもしれません。この研究に関係して、これまで超音波装置を用いないブロック注射の有効性がわかっています。

[研究の方法]

○対象となる患者さん

進行がんの患者さんで、2024年7月1日から2025年6月30日の間に当院緩和ケア病棟に入院された方。予定症例数は39人を予定しております。

○利用する検体・カルテ情報

カルテ情報：診断名、年齢、性別、既往歴、家族歴、生活歴、治療歴、身体所見、検査結果（血液検査、画像検査、他）痛みなどの症状の強さなど

本研究で新たに試料を採取したり使用する予定はありません。

○具体的な研究内容

入院されている病室において、筋肉の痛みの箇所を医師が触診で再度診察し、小型超音波装置を用いて痛みの原因となる筋肉の部位を映し出します。注射用の細い針を用いて痛みの箇所と筋肉を映しながら局所麻酔薬を注射します（一般的な筋肉の痛みに対して行うブ

2024年4月1日（第1.0版）

ロック注射との違いは超音波装置で注射針や痛みの部位を映しながら行うかどうかの違いのみです）。

通常、緩和ケア病棟では上記の方法で1日目と4日目に繰り返してブロック注射を行い、1日目、4日目、8日目の痛みの変化を評価しておりますが、その際に得られた痛みの強さや鎮痛薬の内服量などの情報を診療録に記載しております。これらの情報を収集し、解析を行います。

○研究結果の公表について

本研究の成果は国内外の学会および学術雑誌で発表する予定です。この研究について、研究計画や関係する資料、ご自身に関する情報をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体に支障となる事項以外はお知らせすることができます。

○個人情報の取り扱いについて

研究に利用する検体や情報には個人情報が含まれますが、院外に提出する場合には、お名前、住所など患者さん個人を直ちに特定できる情報は削除し、研究責任者が責任をもって適切に管理いたします。研究成果が発表される場合にもあなたのプライバシーは厳重に保護され、あなたの氏名や病名などが他に知られることは絶対にありません。

[研究実施期間]

2024年7月（倫理審査委員会による実施許可日）～2025年6月30日

*上記の研究に検体・情報を利用することをご了解いただけない場合は2024年12月31日までに以下にご連絡ください。ご連絡がなかった場合、ご了承いただいたものといたします。ご了解されない場合でも不利益を受けることはありません。なお、すでに解析に使用された情報は研究データから情報を削除できない場合がございますので、ご了承ください。

[連絡先・相談窓口]

北海道がんセンター 緩和ケア内科

担当医師：山本 兼二

住所：〒003-0804 札幌市白石区菊水4条2丁目3番54号

電話：011-811-9111

FAX：011-832-0652